

あかやま



第325号
学校だより386号

家の建築とかけて、進路設計と解く、そのココロは。

校長 伊藤 康子



知人から聞いた話である。

建築士になる、という志望を持ち、京都の大学に進学した友人。仲が良く、高校卒業後もずっと連絡を取り合っていた。知人も県外に進学したが、卒業後は島根で就職し、友人は京都で建築士として成功して、そのまま京都が生活の本拠地となつた。若いころから知人はその友人と、

「俺が家を建てる時は、お前に設計を頼む」

「おお、任せとけ」

という約束を交わしていた。

知人は50代になり、いよいよ満を持して、古い家を取り壊し、夢のマイホームを建てることにした。

「約束通り、お前に設計してほしい」

建築士として名を成していた友人のこと、てっきり、二つ返事で、張り切って引き受けってくれると思っていたが、なんと、その場で断られたそうだ。

「お前の家、設計したい気持ちもちろんあるが、家の設計は、その土地の風土のことをよく知っている地元の建築士に頼んだほうがいい。そのほうが、快適で長持ちする家になる。自分は、京都でなら最高の家を設計してやれるが、島根では、お前に最高の家を建ててやることは、たぶんできない。餅は餅屋だ、地元で頼め。」

この言葉を聞いた知人は、地元の建築士に設計を頼み、満足のいくいい家を建てたそうだ。

さて、この話。北高の生徒諸君に置き換えて考えると、私には、この建築士の友人の言葉が、北高の教師陣について語っているように思えてならない。

進路設計をするとき。受験校を決めるとき。

北高生の学力をどうやったらしっかりと伸ばせるのかを一番よくわかっているのは、長年、北高生の気質と癖とやる気の波を見てきて、それをデータとしてだけでなく、「感覚」としてもつかんでいる、北高の教師陣である。人が入れ替わっても、その「感覚」は常に蓄積され、北高教師陣に伝承される。

だから北高の進路検討会では、北高独自の「読み」がある。「模試判定はよくないが、このまま化ける可能性がある」「こういうタイプは案外いいけど、挑戦していいのでは」。もちろん「今はよさそうに見えるが、このままだとヤバい」という「読み」も出てくる。「感覚」を裏付ける北高独自のデータがあるのだ。伝統校としての圧倒的なデータの蓄積。それは、北高生のみに有効で、確実性が高い。ばっちり、アタル。武器になる。

塾も、全国の受験生のデータを持っていて、全国規模の情報を武器にしている。しかし、北高生の気質と癖とやる気の波までは、計算に入れることができない。地域性、気質というものは、本当に存在するのだ、特に勝負ごとに。

さて、先ほどの建築士である友人の言葉、北高向けに言い換えてみよう。

「進路設計は、その学校の生徒のことをよく知っている学校の教師陣を頼ったほうがいい。そのほうが、確実で、本人の力をしっかりと伸ばせる。北高は北高だ、北高の先生に聞け。」

教職員一同、この矜持を持って、北高の生徒諸君との日々を過ごしている。生徒諸君にも、北高生としての矜持と、それに見合う良識を持って、高校生活を過ごしてほしい。そう願っている。

新入生へのメッセージ (新たな世界へと踏み出すために必要なこと)

1年学年主任 森山 登史

1年生のみなさん、入学から早くも数か月が経過し、1学期が終わろうとしています。この1学期はどんな時間だったでしょうか？ここで、1学期を振り返るポイントを3つ挙げてみます。①～③について、それぞれ5点満点、合計15点満点で自己採点すると、みなさんは何点になるでしょうか？

①「予習→授業→復習」の黄金のサイクルが確立できましたか？

「予習→授業→復習」はまさに学力を伸ばすための黄金のサイクルです。予習することで授業のポイント(事前に教材を読んでも理解できないところ、難しそうなところ)を明確にしておき、授業ではそこに特に集中する。そして授業を受けても理解できなかったところは、なるべく早く、できればその週のうちに友人や教員に質問して解決する。そして、あとは時間の許すかぎり復習です。忙しい人は、週末や試験期間をうまく活用しましょう。

②日々の規則正しい生活習慣が確立できましたか？

1日のスケジュールのうち、起床時間、家庭学習開始時間、就寝時間を毎日固定する、いわゆる「3点固定」が確立できていますか？これが乱れると、生活習慣が不規則になり、心身の健康にも支障をきたしやすく、何事にも成果が上がりにくいと言われています。規則正しい生活習慣が確立できていない人は、まず日常生活から見つめなおしましょう。

③新しい環境のもとで充実した日々を過ごせましたか？

高校に入学し、新たな環境に慣れることができましたか？高校生活の中にやりがいや楽しみを見つけることができましたか？学習でも、部活動でも、友人とふれあいでも何でもいいです。エネルギーを注ぎ込むことのできる、または自分にエネルギーを与えてくれるものと出会うことができましたか？まだ出会っていない人、高校生活はまだ始まったばかりです。これから探ししましょう。

どうだったでしょうか？12点以上だった人、良い調子です。このままがんばりましょう。9～11点だった人、まあまあです。でももっとできる。さらなる健闘を祈ります。9点未満だった人、伸びしろ十分です。何かを改善すれば、明るい未来が開けてくると思います。今後の頑張りに期待します。

さて、ここに挙げた①～③は、みなさんが今後の高校生活を充実させ、それぞれの夢を見つけ、それを実現していくための基盤となるものです。では、みなさんが新たな世界へと踏み出し、一層の飛躍を遂げるために、この基盤に加えてどのようなことが必要なのでしょうか？

答えは幾通りもあると思いますが、私は「物事に興味・関心を見出して、積極的にチャレンジすること」を大切にしてほしいと思います。

日々の授業や部活動、生徒会活動、学校行事、研修旅行、ボランティア活動、各種コンテストなど、北高での生活には日々チャレンジがあふれています。「これまで何となくやってきたことにこれまで以上に全力で取り組んでみる」「これまで勉強してきたことをさらに深く掘り下げてみる」「今までやってこなかった新しい物事にチャレンジしてみる」などなど、何かやってみませんか？「物事に対して新たな興味が湧いた」「興味や関心のある物事が見つかった」「夢中になれる何かを発見した」「これまでと違う自分を発見した」など、将来につながる貴重な経験ができるかもしれません。

ただし、新たなチャレンジには、常に「失敗」のリスクがともないます。失敗は誰にとっても気持ちの良いものではなく、できれば避けて通りたいものです。であれば、「失敗」することに対する恐怖をどう乗り越えればよいのでしょうか？

私は小学生の時に、発明王トーマス・エジソンの伝記を読んで読書感想文を書き、表彰していただいた経験があります。そのよしみで、エジソンの言葉を一つ紹介させてください。

「私は失敗したことがない。ただ1万通りのうまくいかない方法を見つけただけだ」

一見するとただの屁理屈ととられかねないこの言葉ですが、私は勝手ながら、「失敗を失敗と思わず、恐れることなく1万回の試行錯誤を繰り返した結果が成功である」と解釈しています。幾多の失敗なくして、成功はありません。

高校生の3年間は、いろいろな意味で失敗することが許される時間です。勉強でも、部活動でも、その他の活動でも、ぜひ積極的にチャレンジして失敗してください。そしてそこから学んで次のステップに進んでください。この繰り返しがみなさんを成長させ、夢へと誘います。

教職員、生徒全員で、この松江北高校という空間を、チャレンジに満ちた、そして失敗が許容される温かい空間にしていきましょう。

全国大会に出場します！

女子登山部

私たちは8月2日から6日にかけて福岡で行われるインターハイに出場します。これまで「自立した登山者となる」ことを目標として日々の部活に取り組んできました。3年生にとって最後の大会なので、良い結果を出せるよう万全の準備で挑みたいと思います。



百人一首かるた部

7月に近江神宮で開催される全国高等学校選手権大会の団体と、8月にある岐阜総文祭に出場します。団体は北高史上2回目、9年ぶりの出場となります。応援してくださる皆様や、大会運営に携わっていただいた方々への感謝を忘れず、正々堂々全力で戦います！



写真部

『視線』
3年 片岡 瑞彩



女子ボート部

女子ボート部は、日々厳しい練習をメンバー全員で乗り越え、インターハイ準決勝進出という目標に向かって頑張っています。残りの練習を大切にし、今のメンバーで戦う最後の大会が悔いの残らないものになるよう全力で挑みます。応援よろしくお願いします。



筝曲部

私たちは島根県予選で優勝し、全国総文祭への出場権を獲得することができました。一緒に練習してきた部員や、指導してくださった先生方への感謝を忘れず、全国の舞台で自分たちのベストを尽くします。



囲碁部

7月末に東京で行われる全国高校選手権と8月に行われる総文祭に出場します。特に選手権は団体での出場なので、北高の名に恥じないよう、好成績をあげられるように頑張ります。応援よろしくお願いします。

将棋部

私たちは島根県予選で優勝し、全国総文祭への出場権を獲得することができました。一緒に練習してきた部員や、指導してくださった先生方への感謝を忘れず、全国の舞台で自分たちのベストを尽くします。

放送部

みなさんこんにちは！私たち放送部は、7月22日から25日まで東京で行われる第71回NHK杯全国放送コンテストと、8月2・3日に岐阜県で行われる全国総文祭に出場します。精一杯頑張りますので、応援よろしくお願いします。

このほか、陸上部も5000m競歩でインターハイへの出場が決定しました。また、総文祭では、美術部・写真部・書道部が作品出展、自然科学部がポスター発表を行う予定です。

美術部

『The last breath』
3年 松本 遥



2025年に共通テスト化される「情報I」の実情にPTA広報委員が迫る!!

~求められるのは基礎知識に基づく「思考力」や「実践力」~

平成30年6月の未来投資戦略2018において、大学入学共通テストにおける基礎的な科目として必履修科目「情報I」を追加する方針が閣議決定されました。そして、2025年の共通テストから「情報I」が新科目として加わります(60分100点)。PTA広報委員会では、過去問がない「情報I」に不安を感じている高校生や保護者に向けて、今回特集を組んでみました。

野崎先生にQ&A

Q 入試対策は？

A 基礎的事項の再確認、問題に早く慣れて傾向や考え方を掴む、この2つが必要です。(理数科3年生では夏休みか2学期以降に、補習を準備する予定)

Q 入試の難易度は？

A それほど難しくはないと考えています。問題の傾向として、知識を問う問題よりもむしろ思考力や実践力を問う問題が出題されているようです。

Q 家庭で心がけることは？

A 他の教科に比べると学習時間を多く割けない傾向があると思いますが、ある程度問題の傾向に慣れておく必要がありますので家庭での声掛けも必要かと思われます。

Q 生徒につけたい力は？

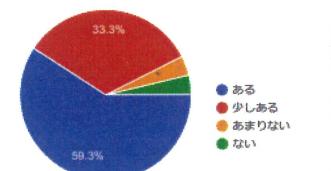
A 教科書に書かれている技術や考え方が「なぜ」使われているのか考える力をつけて欲しいです。また疑問に感じたらすぐに検索で情報を集め活用する力を付けることも大事です。

このQ&Aは抜粋です。
全文はこちら⇒



15R情報科授業に関するアンケート

Q 共通テスト「情報I」に不安がある？



Q どんなことが不安？

A 出題傾向、難易度がわからない
計算問題が不安 内容が難しい

Q どうしたら不安が軽くなる？

A 演習問題、実践的なテストにたくさん取り組む問題形式を把握して、解けるようになる

Q 授業で「楽しい」「面白い」と感じる原因是？

A 問題が解けたとき 分かったとき
計算しているとき クロムブックを使うとき
プログラミングするとき

Q 授業と日常生活が結びついていると感じる原因是？

A スマホやパソコン、クロムブックなどを使って、インターネットやSNSをしているとき

Q 情報が得意な先生の「すごい！」ところは？

A 情報についての知識量が多くて電子機器に詳しい
情報だけでなく数学もできる 計算が早い

「情報I」授業潜入レポート：静止画と動画のデータ量算出方法を何とか学ぶ

新科目「情報I」で何を北高生が学んでいるのか。それを探るべく、6月4日(火)、広報委員会志3名で野崎先生が担任をする15Rに潜入しました。野崎先生は民間企業でRubyにも携わっていた企業への勤務経験もお持ちとのこと。

本日のテーマは静止画と動画。両者の基本的知識からデータ量の算出方法を学びます。そして、先生から「スクールタクト」なるものに課題が配信されると、高校生は各自のPCでその回答を調査して記入を始めます。先生は生徒各自がどのように回答入力しているかをリアルタイムで観察でき、どこで悩んでいるのか間違っているのか把握できるという。

数学や物理などと違い、普段撮るスマホ写真やYouTubeなど身近に利用するものの話であり、内容がイメージしやすいと感じました。

今回の取材を通じて、アンケートの結果から93%弱の生徒たちが、本科目に対して不安を感じることが分かりました。一方で試験の傾向や学習内容について学んだ結果、共通テスト対策としては、他教科同様に基礎を抑えたうえで、しっかり演習することにより本科目特有の傾向や考え方慣れば、十分に対応できるのではないかと感じました。北高生の健闘を祈ります！